

# 滅び行く遊牧生活と植林活動への懐疑性

## 三輪誠

### 東京学芸大学環境教育実践施設

遊牧とは、本来大量の家畜を飼育しながらも「移動」という手段をとることによって、草原を草原として保ちつつ生産活動ができる、草原と共存した形の生活方式であった。

中国・内蒙古自治区の草原では古くから遊牧民達が家畜たちを伴い伝統的な遊牧生活を営んできた。しかし近年、この内蒙古自治区の草原では、定住化による農耕・放牧で沙漠化が進んでいる。沙漠化が深刻化する以前、中国、内蒙古自治区内「この移動性ゆえに、もっぱら放浪的であると受け止められ、遅れた生活として理解されがちで、また土地への継続的な投資を重視する農業と比較して、きわめて粗放的な生業として理解されてきた」と指摘されている。（「モンゴル」p70より）これらのことから、遊牧生活への無理解が草原沙漠化に拍車をかけていることが考えられる。

また、これらの草原破壊、生活破壊の中、内蒙古自治区では自治区内の草原で様々な植林ツアーや植林活動などが行われている。しかしその植林活動のすべてが本当に現地の草原回復や遊牧生活の回復につながっているかは疑問であり、伝統的生活や草原の破壊に拍車をかけている可能性もある。

そこで本稿では、中国・内蒙古自治区での草原や現地住民の生活の現状と日本の内蒙古植林団体について調査し、今後の内蒙古自治区における遊牧生活と植林活動のありかたについて考察する。

調査方法としては、まず調査対象地の中国・内蒙古自治区、錫林浩特・正藍旗周辺にて草原の沙漠化や植林地の状況についての観察調査を行う。次に、現地にての直接面接法による選択回答式と聞き取り式のインタビュー調査を行う。選択回答式の調査については、選択回答式の生活の状況・沙漠化や植林活動に対する意識に関する質問 10項目を作成し、錫林浩特と正藍旗周辺の草原で生活している住民に、インタビューし、聞き取り式調査については、現地住民に、現在の生活の状況や沙漠化についてインタビューする。質問の内容としては、生活様式・生活方法・家族人数・家畜数・夏営地の有無・草原区画化の有無、沙漠化の原因・自主的植林の有無について質問し、またその

の草原がなぜ保たれてきたかという、遊牧という生活方式が大きく関係しているからであろう。前にも述べたとおり、遊牧とは本来大量の家畜を飼育しながらも「移動」という手段をとることによって、草原を草原として保ちつつ生産活動ができる、草原と共存した形の生活方式である。この「移動」という行為によって「牧草の確保」と「草原の保全」という相反する2つの行為を実行することができる。しかし(小長谷 1997)によると遊牧は、事例にあった生活の状況についての質問をする。植林団体に関しては、日本にて日本沙漠緑化実践協会、内モンゴル沙漠化防止植林の会、HONDA グリーンルネッサンス活動から植林活動の形態や目的などについて直接聴取による調査を行う。

調査の結果、選択回答式では 20 戸、(表 1) 聞き取り調査では 17 戸 (表 2) の事例を得る事ができた。まず、現地住民の生活については草原の区画化、沙漠化防止政策のため「区画化された草原内で夏営地と冬営地の間を年 2 回移動する形の放牧生活」「区画化された草原内において冬営地周辺だけで放牧生活」「政府の用意した民家に定住し自分の敷地内で数頭の家畜を飼い、そのミルクを売って生活する牧畜生活」の大きく 3 つの生活様式に分類できた。しかし、それらの生活様式はどれも遊牧生活と言えるものではなかった。

次に、そのような生活様式の中、現地住民の遊牧、沙漠化・植林に対する考えについて、遊牧に関しては遊牧生活に戻りたいと言う事例が 8 割を超える結果になった。現地生活様式の一つである定住に関しては沙漠化防止政策のため仕方なく生活しているのが現状であった。沙漠化に関して現地住民は非常に強い危機感を抱いており、また植林に関しては植林への興味関心の度合いは高く、草原の回復の必要性を強く感じていることが明らかになった。個人的に緑化活動を行っている事例も 17 戸中 5 戸存在した。

また日本の植林団体の活動については対象となった植林団体の活動の最終的な目的は草原の回復ではなく、農地や経済林として回復させる緑化活動が主な活動となっていた。現地住民の参加協力

表1 遊牧生活についての意識

	①遊牧生活を続けたいと思いますか	②遊牧生活は生きていく上で欠かせない生活様式だと思いますか	③定住したいと思えますか	④遊牧生活を行う上で沙漠化した地域を植林などによって草原として復活させ保っていくことは必要だと思いますか
思う	13	15	4	17
少し思う	0	0	2	1
どちらでもない	3	1	2	1
あまり思わない	1	1	2	0
思わない	0	0	8	0
無回答	3	3	1	1

	⑤内蒙古の草原での沙漠化問題に興味がありますか	⑥内蒙古で行われている植林活動に興味がありますか	⑦内蒙古で行われている植林活動に参加してみたいと思えますか
ある	16	18	17
少しある	1	0	0
どちらでもない	1	1	1
あまりない	0	0	0
ない	0	0	0
無回答	2	1	2

	⑧定住するとしたら何を生活しますか
農耕	1
牧畜	13
街に働きにでる	0
その他	0
無回答	6

	⑨一家で飼っている家畜の数は何頭くらいですか
50頭以下	4
50～100頭くらい	3
100～200頭くらい	7
200～300頭くらい	4
300～400頭くらい	1
500頭以上	0
無回答	1

	⑩遊牧生活における移動手段は何ですか
徒歩	1
家畜	0
徒歩と家畜	0
車やバイク	9
その他	0
無回答	10

はみられたが、遊牧活動への無理解が目立つ結果になった。

以上の結果からまとめると、現在の現地での生活様式のなかで遊牧といえる生活様式は存在せず、そして現地政府の草原区画化政策や沙漠化防止政策は遊牧という生活様式への無理解によって、沙漠化や貧困化、現地住民への精神的圧迫が進んで

いることが判明した。また遊牧への無理解という面では植林活動についても同じことが言え、調査対象となった植林団体の活動が内蒙古の遊牧生活の回復へとつながるとは言い難く、本来の遊牧活動と草原についての理解が必要であるということが明らかとなった。

表2 遊牧民の現況

調査票no.	生活様式	家族人数	家畜頭数	夏営地の有無	草原区画化の有無	沙漠化の原因	自主的植林の有無	居住地
1	定住	8	牛3	無		家畜数増加、気候悪化	無	シリンゴル草原
2	定住	4	牛7	無		家畜数増加	無	シリンゴル草原
3	遊牧 1)	6	牛74、羊234	有	有	気候悪化、区画化、鉄道建設	無	正藍旗
4	放牧 2)	6	牛50、羊150	無	有	家畜数増加、気候悪化	無	正藍旗
5	遊牧	4	牛10、羊100	有	有	気候悪化	無	正藍旗
6	遊牧	6	牛10、羊200	有	有	気候悪化	無	正藍旗
7	遊牧	4	羊45	有	有	家畜数増加	無	正藍旗
8	遊牧	4	無回答	無	有	気候悪化、家畜数増加、人口増加、区画化	有	正藍旗
9	定住	5	牛3	無		区画化	無	正藍旗
10	遊牧	5	無回答	有	有	無回答	無	正藍旗
11	定住	4	無回答	無		区画化、家畜数増加	有	正藍旗
12	定住	2	牛25	無		気候悪化	有	正藍旗
13	放牧+狩猟	5	牛23、羊15	無	有	気候悪化、風力発電による地下水利用、人口増加	無	正藍旗
14	放牧	5	牛20、羊100	無	有	区画化、気候悪化、家畜数増加	有	正藍旗
15	定住	6	無回答	無		気候悪化、区画化、家畜数増加	有	正藍旗
16	放牧	5	牛22、羊20	無	有	区画化、家畜数増加、気候悪化	無	正藍旗
17	放牧	4	無回答	無	有	無回答		正藍旗